

## 75 仙台の街路樹の始

問 仙台の街路樹は、いつ、どこで、何が植えられたのが始まりですか。

答 大町5丁目の豪商大内源太右衛門が、明治24年の濃美大地震の際の罹災孤児24人を引取り養育した記念にと、市内随一の大通りであった南町通の両側に柳と桜とをとり交ぜて植えたのが、仙台の街路樹の始めです。

注(1) 大内屋の第8代目、初め新右衛門と称し、聚楽と号した。原町庄司卯之助の次男として弘化4年〔1847〕に生れた。大町一丁目の古着商大内屋の養子となり、窮状にあった養家の立て直しに心血をしばった。苦勞の甲斐あって商運が大いに開け、大町五丁目に店舗を移し、当時仙台屈指の呉服商となった。源太右衛門は特に信仰心が深く、殊に博愛公益の志が厚かった。孤児の養育などもその一端であった。また、原町市街と北裏との通路を開いてこれを大源横丁と称して、通行の便をはかった。平生古書を好み、「仙台鹿の子」等の有用の書を復刻するなどして、郷土研究に裨益するところが大きかった。明治42年〔「宮城郡誌」は明治38年と誤る〕6月4日歿、63才。原町陽雲寺に葬る。

注(2) 明治24年10月28日、岐阜・愛知両県〔美濃と尾張〕を中心として起った大地震。激震地域は美濃平野一帯から福井県に及び、死者7千2百、負傷者1万7千、全潰家屋8万にのぼった。

注(3) 昔から6尺余〔2m弱〕しかなかった細道だったが、明治20年東北線開通に備えメインストリートとして一挙に9間幅〔約17m弱〕に拡張された。大正15年11月25日市電が通った時更に12間〔22m弱〕に拡幅され、戦前まで仙台市内第一の道幅をもつ道路だった。昭和8年1月7日第二師団が満洲から帰還した時、師団長多門二郎にちなんで「多門通」と改称されたが、戦後もとの町名に復した。

資料 仙台郷土研究第11巻第5号  
東一番丁物語（柴田量平）  
仙台事物起原考（菊地勝之助）